

2005年4月28日

みつばち通信

2005年-1号

みつばち薬局待鳳店
京都市北区紫竹西南町 66
494-1788 FAX494-1566

みつばち薬局紫野店
京都市北区紫野上築山町 2-2
417-3911 FAX417-3910

2000年4月に始まった介護保険制度が丸5年を迎え、現在、「見直し」法案が国会で審議されています。その内容は、大変な代物です。

介護保険の見直しで負担増！！

自民・公明党政府による「見直し」介護保険改悪法案では、「家事援助サービスが自立を妨げている」として、「軽度要介護者」(「要支援」や「要介護1」の利用者)のお年寄りの7～8割(150～160万人)を、新しく作る「新予防給付」に移してホームヘルパーやデイサービスの利用を制限しようとしています。この改悪が実施され、介護サービスが制限されると、

生活の質の低下

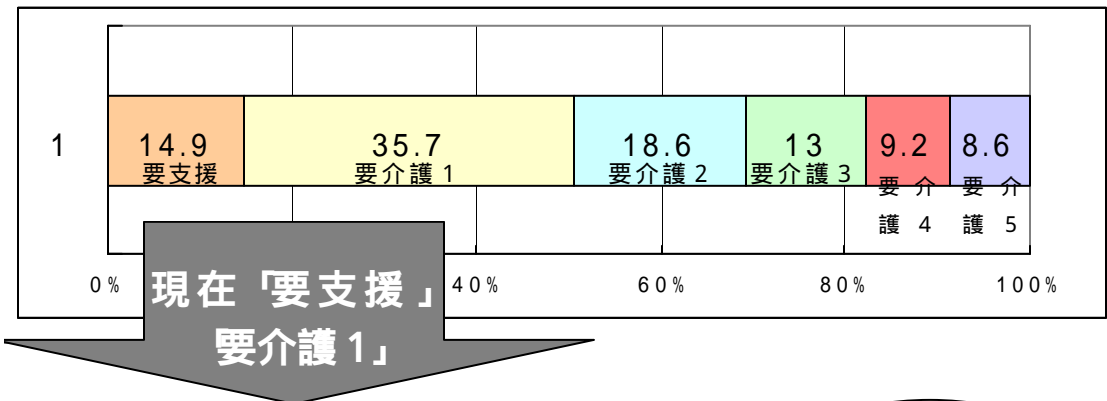
日常動作の低下

在宅生活の維持の困難

病状の悪化、などが懸念されます。

一人暮らしや、ホームヘルパーの支えで生活している人達に不安が広がっています。

現在6段階の要介護区分が、改悪後は7段階になり、「要支援」を「要支援1」「要支援2」の二つに分けるとしています。



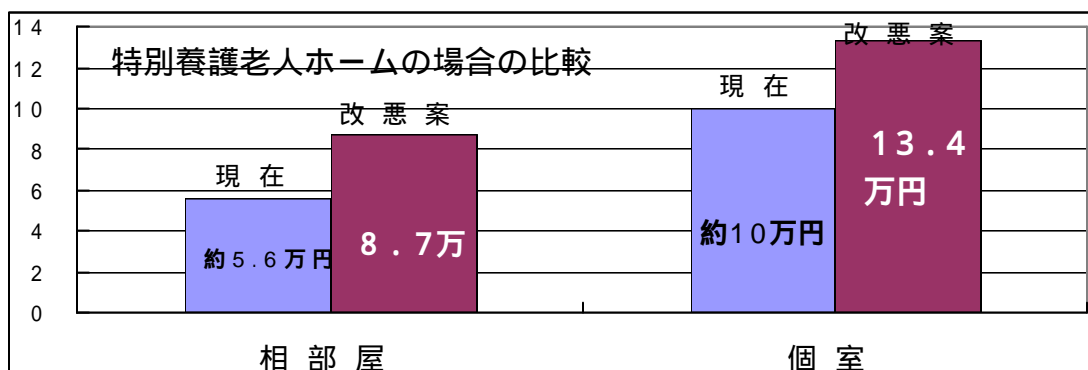
新「要支援1」「要支援2」
「要介護1」

新予防給付へ

新予防給付とは：「予防重視型システムへの転換」として新しく「介護給付」とは別に設けられる「筋カトレーニング」や「口腔ケア機能向上」を行う「予防給付」の事です。新予防給付では、「家事援助型の訪問介護は原則行わない」としています。

介護施設は、部屋代・食事代で大幅負担増に

施設利用をしている人は、居住費（ホテルコスト）や食費の自己負担が大幅に（個室で月約 3.5 万円）増えます。わずかな年金暮らしの高齢者は施設に入所できなくなってしまう。



保険料も大幅アップに

今でも保険料負担が「重たい」と感じている人は7割を超えていますが、改悪案では来年 4,300 円、2009 年には 5,100 円、2012 年には 6,000 円と大幅アップを計画（現 3,300 円）しています。

税金のムダ使いをやめて！！

「福祉のためには消費税増税は仕方ない」のでしょうか？「国民の命と暮らしを守るお金を削る」一方で、「ムダな公共事業」や「毎年5兆円を超える軍事費」「年金積立金の流用」などの税金ムダ使いこそやめるべきです。

消費税導入後、福祉は悪くなるばかり！

	導入前	2003年(平成15年)
健保本人の医療費負担	1割	3割
国民年金保険料(月額)	7,700円	13,300円
老齢厚生 年金支給年齢	60才	65才
老人医療費自己負担額	800円月(外来)	1割又は2割

「福祉のため」と言って導入された消費税。現実には、消費税導入後、福祉は悪くなるばかりです！大企業とお金持ちの税金が安くなっただけです。

介護保険改悪に反対し、改善を求める署名にご協力下さい。

文責：管理薬剤師 山元 隆

イレッサ（ゲフィチニブ）＝肺ガン治療薬の副作用について

実際の死亡者数は報告数より多い？

新聞報道によれば日本共産党の小池晃参院議員の質問主意書に対する政府答弁書で、イレッサの副作用によって死亡した人が、厚生労働省が公表していた588人より多い可能性があることが分かりました。

一方、イレッサ投与により間質性肺炎など副作用により死亡した被害者の遺族が原告となり、イレッサ薬害被害訴訟を大阪地裁で国とアストラゼネカ社に対して起こしています。

イレッサとは？

イレッサはイギリスに本社をおく世界的な大企業アストラゼネカ社によって開発された肺ガン治療薬です。2002年7月厚生労働省によって輸入承認され、世界ではじめて日本国内で販売が開始されました。しかし、アメリカではFDA（食品医薬品局）がアストラゼネカ社に回収を勧告し、欧州ではアストラゼネカ社自身がイレッサの承認申請を取り下げるなど、イレッサの有効性と安全性に対する疑問は強まっています。また、訴状では、発売当初より安全性の対策がなされていなかったとしています。

イレッサ使用のガイドライン

このたび「ゲフィチニブ使用に関するガイドライン作成委員会」で実地医療での使用に関するガイドラインが出されましたが、まだ検討の余地はありそうです。抜粋を要約すると、

適応症：「手術不能または再発非小細胞肺癌」の厳守

投与により利益が得られやすい患者群：「線癌、女性、非喫煙者、日本人（東洋人）、EGFRの遺伝子変異を示す症例であること」に投与することの推奨

本剤の単独投与：「他の抗悪性腫瘍剤や放射線治療と同時併用はしないで、単独で投与する」

危険性：「喫煙歴を有する者、間質性肺炎合併症例、男性、低酸素血症を有する者、塵肺、扁平上皮癌などへの投与」を考慮しての限定使用（投与による利益が投与による危険性を上回ると判断される場合）

医師及び医療機関の限定：肺癌化学療法に十分な経験をもつ医師が使用するとともに、投与に際しては緊急時に十分に措置ができる医療機関で行うこと。なお、間質性肺炎の専門医の助言を適宜得られる環境下での使用が望ましい。

患者の自由意思による同意：患者に投与の目的、投与方法、予想される効果、副作用（死亡例も含む）、代替治療の有無及びその内容、等、十分説明して自由意思による同意を文書で得る。

等、9項目をあげ、全ての条件を満たした場合にのみ本剤の投与を行うべきであるとしています。また、投与に際しての医師の注意義務、及び、副作用が現れた場合の対応など明記されています。

また、愛知がんセンターの知見の発表ではEGFR（上皮細胞成長因子受容体）変異者は生存期間が長いという研究結果が発表されました。

副作用死のリスク大きく、有効性の根拠が不明確

今までもFADが使用を禁止した薬品で、遅れて日本でも禁止した例がありました。

以上の事より、非常に限られた条件での使用となり、しかも副作用による死亡の心配をしながらの使用となります。使用を見合わせるのが良いのではないのでしょうか。 文責：薬剤師 山代泰史

みつばち薬局
生活相談会のお知らせ

紫野店 毎月第3月曜日
午前10:30から12:00まで

待鳳店 毎月第3水曜日
午前10:30から12:00まで

専門家の協力も得て、生活相談を受け付けます。
医療や介護に関することはもちろん、何でもお気軽にご相談下さい。
相談ご希望の方は、できるだけ事前にお申し付けください。

みつばち薬局 知得クイズ

下の5問に「ウ(間違っている)」「ホント(真実)」でお答え下さい。
問題が正しいと思う場合は、間違いだと思う場合は×を解答欄に記入して、応募箱にお入れ下さい。全問正解の方の中から抽選で10名様に図書券(1,000円)を差し上げます。当選者の発表は、薬局内に掲示します。締め切り日:5月31日(火) 薬局内の「クイズ応募箱」に入れてください。

- 問1: 介護保険制度が始まったのは平成12年4月である。
問2: 介護保険の改悪により、施設利用をしている人は自己負担が約3万円程度増える。
問3: イレッサは乳ガン治療薬である。
問4: イレッサの副作用によって死亡した人は98人である。
問5: みつばち薬局のシンボルマークのみつばちには眉毛がある。

ご住所:

お名前:

電話番号:

問題	問1	問2	問3	問4	問5
解答欄					